

(セッション NO.22) 福島の今を知ろう! 福島エクスカーション+福島学カフェ

○開催日時：平成 27 年度 9 月 19 日(土) 10:30～16:30

○場 所：被災地&広野町中央体育館アリーナ

○講演者：開沼 博

○参加者数 約 60 名 (福島エクスカーション参加者 20 名+福島学カフェ参加者 40 名)

○概要：

1. 第一部 福島エクスカーションについて

説明 ～

いわき駅に集合し、国道 6 号線を抜けて被災地をめぐりながら福島の現状について学んだ。参加者は首都圏から来た人がメインだった。

2. 第二部 福島学カフェ

説明 ～

福島の現状について、開沼博『初めての福島学』(イースト・プレス)をもとにしてデータで振り返るとともに、ワークショップ形式で理解を深めた。

(1)質問 紹介したデータへの感想と疑問

- ・残った問題は根深い。 ・実感とデータが乖離している部分がある。 ・全量検査にかかる時間と費用は？ ・“福島カワイソウ”にしないためには？思考停止させたくない。 ・ロジカルさをどう納得してもらおうか？ ・社会のこと＝別の地域の人がどう学びやすい組立にしていけるか？ 大変でしたねで終わらせないためには？ ・日本の抱えている問題とほとんど変わらない。 ・第一次産業の割合が元々もっと高いと思っていた。 ・一次産業の低さには驚いた。 ・福島の米は安全。 ・震災関連死が直接死より多い。 ・予想以上にそれぞれの産業ごとに回復が違っていったことに驚いた。 ・数値の知識を入れておくか、入れておかないかで「イメージ」が変わるということ。人間はイメージで動くことが強い中で有効な手段であること。 ・復興したかどうかは誰が判断するのか？
- ・思った以上に観光が打撃を受けていた。 ・結局、風評被害が最も大きく影響している気がした。 ・風評被害などあるものの、それぞれの産業が割と回復していると感じた。 ・農林水産業でみると、水産業がなかなか回復していない。 ・森林の除染のタイミング重要では？ ・これから福島をどう考えるとよいか？全国と比較して強み・弱みをしりたい。 ・浜通りの復興の今後を考えるにあたり町単位のデータを見たい。町単位で統計的に見ることは可能か？(3.11 後統計データはとられているのか？) ・地元の生活目線と国や県の行政の目線でうまくいっているところといてないところは？ ・回復が 9%の漁業は今後どうなるのか？ ・避難生活の状況は統計的に把握するためにどう考えると良いのか知りたい。 ・孤立する避難者はどうすればよいのか。県内避難者の問題は？ ・日本人にさえ福島の現実は伝わっていない。ましてや海外の Fukushima のイメージは？ ・マイナスからの可能性がる。 ・米の全袋検査で 0 は驚いた。 ・避難者の 2.3%は妥当だ。 ・米の収穫量の 86%は妥当だ。 ・多くの数値は妥当だと感じた。 ・このデータを見てもなぜ信頼・信用できないと思うのか？ ・観光客 84.5% では、観光収入は？ ・福島の経験が今後の日本に活かせる方法とは？ ・そもそもデータが知らされていない

ものが多かった。 ・なぜこれが伝わらないのか？PRの仕方？ ・関心がある人は減っている？
どうゆうアプローチをすればいいのか？ ・メディアは全体像を伝えるより面白おかしい部分、
数字あるいはステレオタイプな情報が伝わっているのでは？ ・住民自身はこれらのデータを知
っているのか？ ・距離や土地勘 ・農作物が安く買われるということは、質を高める必要があ
る。 ・農作物の風評被害対策 CM やイベントの実施？ ・観光業を盛り上げるためのコンテ
ンツは？ ・避難している人の健康管理は？ ・林業の回復率が意外と多かった。地元で建築物
利用されてるのがどれほどなのか気になった。 ・今後林業は成立するのか？除染どうやって行
くのか？ ・出生率はなぜ上昇したのか？ ・ソフトとしての福島ブランドが作れないか？ ・
農業の産業化に向けた動き。 ・離婚率の低下はうなずけた。(海外) ・米の安全性には驚いた。
(海外) ・海外に向けた情報発信が必要。(海外) ・米と漁業の情報はとても有益だ。(海外)

(2)質問 この地域の魅力とは!?

・景色 (海外) ・人々 (海外) ・ビジョン (海外) ・海 (海外) ・福島は広いなー ・
学校がいい活動をしている。 ・広い ・お菓子がおいしい ・温暖な気候 ・涼しい ・海が
近い ・狭い ・木々がある ・環境と自然。天気が良い ・医療の人材不足の原因 ・アクセ
スが良い ・作業員がたくさん生活していること ・震災後に復興へ向けて取り込んでいる
姿。 ・人口 200 万というサイズ感・時折で会う素敵な人 ・人と食事 ・人が優しい。 ・温
かみがある ・歴史 ・東京との距離感 ・人が多い ・自然が豊か ・海があり山があり川が
あり ・日本で唯一の経験を持つ ・逆行に立ち向かう力がある。 ・他からの注目 ・一体感 ・
町の程よい大きさ ・緑が多い ・素敵な風 ・人と人とのつながりがある ・あたたかい雰
囲気 ・復興が想像よりも進んでいる。 ・人がオープン ・夏が涼しく 冬暖かい ・教育に力
を入れている。 ・静かでゆったりしている ・時間がゆったり流れている。 ・ちょっと高台
に上がると真っ青で穏やかな海が見えること ・東電に頼らずに生きていくと決めて行動してい
る人がいること ・改革ができるとチャレンジする人がいること ・被災者 1000 年に一度の語
り部がある ・今までになかった新しい取り組み ・通常考えられないほどの国際フォーラム
(町の大きさに対して大きい)

全体に活発な議論が重ねられ、多くの参加者が様々な気づきを得、自ら地域の実像を見直す機会
になった。